

## 2020 年度事業 進捗報告書（実行団体）

- 提出日 : 2022年 9月 30日
- 事業名 : 兵庫県但馬地域における持続可能な医療福祉提供体制構築事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人社会変革推進財団
- 実行団体 : NPO 法人但馬を結んで育つ会

### ① 実績値

アウトプット	指標	目標値	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
啓蒙活動の実施	セミナー等実施回数 参加人数	5 回 100 人	2024 年 2 月	5 回 596 人	1
医療画像の共有・オンライン（遠隔）診療・服薬指導等を通じた医療・介護の効率化	参画施設数	10 施設	2024 年 2 月	28 施設	1
連携法人設立準備プラットフォームの設置	設立の有無	有無	2024 年 2 月	無（TMS がコーディネーターとなり、病院組合関係者を交えた協議を 4 回実施）	3
「小さな拠点」の成功例の創出	疾患・健康状態の変化に関わらず、地域内にとどまり、ライフスタイルに合わせた生活を営むことのできる場所の創出	1 ヶ所以上の事例創出	2024 年 2 月	0（養父市関宮で市を中心に地元説明会を 4 回実施。策定委員会の会議が 5 回、コアメンバー会議が 4 回出席）	3

\*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

## ② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A: 変更項目 <input checked="" type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
オンラインでの会議運営やセミナー開催など。

## ③ 広報 (※任意)

### 1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

- 2022年5月24日 NHK兵庫 「但馬地域の医療維持へ山形県の団体と協定 ICT活用など連携」
- 2022年5月3日 神戸新聞 「持続可能な地域医療福祉を 山形の先進組織と連携協定 NPO但馬を結んで育つ会」
- 2022年5月1日 河北新報 「日本海ヘルスケアネット 地域医療の課題解決へ情報発信 兵庫のNPOと協定」
- 2022年4月23日 荘内日報 「日本海ヘルスケアネット 但馬を結んで育つ会 情報やノウハウ共有し交流深める」
- 2022年4月22日 読売新聞 山形版 「広域医療情報共有へ協定 日本海ヘルスケアネット 兵庫県のNPOと」
- 2022年4月9日、5月14日、6月18日、7月16日、8月13日、9月10日 日本海新聞リレーコラム ～地域の医療・福祉のあした～
- 2021年6月2日 日経 Beyond Health 「「休眠預金」を活用して兵庫県但馬地域の医療・介護体制を強化」
- 2021年6月1日 日本経済新聞 関西版 「但馬の医療・介護連携に休眠預金」
- 2021年6月1日 神戸新聞 「医療、福祉を守る仕組みを 市町の枠超えた協力訴え」

### 2.広報制作物等

会報誌を過去に6回発行。

### 3.報告書等

なし。

## 2020 年度事業 中間評価報告書（実行団体）

### 評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	全般	千葉 義幸	NPO 法人但馬を結んで育つ会 代表理事
外部	点検/検証	宮垣 健生	但馬信用金庫 常務理事
内部	全般	砂原 領太	NPO 法人但馬を結んで育つ会 事務局長

### A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

#### ① 短期アウトカムの進捗状況

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
会員	会員数	80 人	2024 年 2 月	現状 321 人であり、既に目標値を達成している。
会員	寄付金額	50 万円	2024 年 2 月	現状 259 万円であり、既に目標値を達成している。
会員	意識調査結果（連携が必須という認識をもっているか）	50%	2024 年 2 月	会員向けの意識調査では「連携が必須」と「非常に強く感じている」+「強く感じている」と回答している合計が、95%を超えている。
医療施設	医療画像共有体制の稼働・参画施設数	10 件	2024 年 2 月	現状 28 件であり、既に目標値を達成している。
自治体	首長や自治体の部長・課長との協議回数	10 回	2024 年 2 月	現在までに 4 回開催しており、協議を続けている。



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成の見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</li> <li><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>自治体や病院等を巻き込んだ動きは、コロナ等もあり少し停滞気味ではあるが、協議の回数も重ねてきており、徐々にではあるが前に進んでいる。</p> <p>養父市の小さな拠点については、養父市の職員とも一緒に先進地視察に行くなど共通の理想像を描ける段階に来ている。</p>

## B) 事業の改善状況の評価

### ① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	意識調査結果（連携が必須という認識をもっているか）	会員向けの意識調査では「連携が必須」と「非常に強く感じている」+「強く感じている」と回答している合計が、95%を超えている。	会員に対して、多職種連携やコロナ対策の研修など実施しており、着実に成果が出ている。また会報誌やホームページ等での情報発信により、より多くの人へ状況共有できるように努めている。
実施をとおした活動の改善、知見の共有	コレクティブインパクトを生み出す活動ができているか	改善中	・推進委員会において、今後の活動の見直しの協議を行っており、メンバーが興味関心の高い分野において活動できるよう、小グループでの部会主導に移行する予定。
組織基盤強化・環境整備	コレクティブインパクトを生み出す組織基盤や環境があるか	改善中	・多岐にわたる活動をサポートする事務局体制について、SIIFが伴走支援にてサポート。事務局がコーディネーター的な動き方をできるように改善活動を継続している。

### ② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- ・自治体の首長や議員、公的病院幹部、医療福祉従事者、経営者団体など適切なグループに分けて、必要な研修や協議を重ねており、それが会員数と付額の増加につながっている。
- ・また研修を重ねるごとに「医療福祉に関する連携が必須」という意識醸成が図られており、有効性を感じている。

### ③ 事前評価時には想定していなかった成果

- ・地域の企業経営者も医療福祉の連携により、持続可能な提供体制の構築を感じてもらっており、団体会員になってもらっている。



④ 事業計画の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や事業対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる</li> <li><input checked="" type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある</li> <li><input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っている</li> </ul> <p>と自己評価する</p>	<p>推進委員会の取り組み改善、事務局のキャパシティビルディングを続けており、事業計画の達成に向けて、適切に改善する見込みがある。</p>

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

・PwC や Code for Japan など地域外の外部組織と連携事業が開始する見込みである。事務局の人的リソースが足りない。組織基盤の強化に取り組む必要があるが、現状の財政規模からすると、これ以上事務局の人的リソースを掛けることができず、人材を増やすことができない。コレクティブインパクトを生み出す中間支援組織として、収益化の確保の検討が必要である。

添付資料 活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）

①新温泉町での議員向け勉強会の様子



②日高高校での特別授業の様子



③日本海ヘルスケアネットとの意見交換会

